

2013年度防災教育チャレンジプラン(入門枠実践団体)

最終報告書



記入日 2013年 11月 26日

実践団体名		竜南いのち守り隊	
連絡先		0564-54-4400	
プランタイトル		環境といのちを守る街づくり2013	
		番号※	詳細
1 プランの対象者		4,8,9	竜南中学校の中学生及び保護者・教職員
2 対象災害種別		1	・東海・東南海・南海トラフ連動地震
3 プランの目的		2,3,5,6,8	・将来の地域を担う中学生の防災意識の向上 ・衣食住から学ぶ防災により、中学生にできることを考える。
4 協力・連携先		1,4,5,7	・岡崎市防災危機管理課 竜南中学校PTA
5 プログラムの種類		4,9,11	・総合的な学習の時間を核とした学校教育全体
参考 先進 事例	活動年度	2011年	団体名 宮城県大河原町立金ヶ瀬中学校
	参考内容	・中学生が核となる防災教育実践 ・地域防災訓練	

※ 赤枠は別紙「記入上の留意点」の各項目から選択し、記入してください。

地域特性に応じた アレンジ・工夫点	・東海・東南海・南海トラフ連動地震を想定した切実感ある学習とする。 ・中学生だからこそできる、地域と協力した防災活動・減災活動を学ぶ。
実施スケジュール 内容・成果※	5月 ・防災オリエンテーション 6月 ・東京臨海広域防災公園（そなエリア） 7月 ・東北地方訪問準備・DIG 講師打ち合わせ 8月 ・東北地方訪問 【成果】金ヶ瀬中学校との共同授業・東日本大震災での経験から学ぶ ・被災地ボランティア 【成果】津波被災農地において、トマトの収穫ボランティア活動 ・視察【成果】亘理町立荒浜中学校を訪問し、絆を結ぶ。 9月 ・地域防災訓練参加 ・学校における防災訓練 ・防災マップ作り ・凶上避難訓練 DIG 10月 衣食住の視点から考察する防災 ・衣・・・防災スリッパ・防災服 ・食・・・災害時非常食・調理体験・どこでもかまど作り ・住・・・防災マップ完成・DIG まとめ
全体の反省・感想・課題	・生徒が切実感を抱きながら学びを進めていくことができた。 ・専門家との連携により、アドバイスをいただきながら「中学生だからできる」学習に取り組むことができた。
今後の継続予定	・防災フェスタに向けて学びを展開する予定。 ・地域を巻き込む学びにしていきたい。

2013年度防災教育チャレンジプラン(入門枠実践団体) 最終報告書



※ 写真の添付など、枠内に収まらないときは裏面自由記述欄を使用してください。

自由記述欄 (必要に応じ、具体的な活動記録を自由様式で補足添付することが可能です。頁数自由)

1 学びの理由

東海大地震が30年以内に起こる可能性は87%と言われている。私たちの街、岡崎もその被害は大きいとされ、地震の揺れは震度6弱以上と考えられている。地震が起きると、消防士は火災の消火で手がいっぱいになってしまい、救助活動が十分にできないという。東日本大震災では、中学生をはじめ、若い人の力が救出時や避難所でも大きな役割を果たした。つまり、中学生のような「若い防災力」が求められているのである。そこで、地震などの災害が起きた際、自らの身を守り、他者を救うことのできる中学生になるために、できることを積極的に行動にうつす中学生を目指す必要があると考えた。この地震に限らず、豪雨や洪水等の被害が大規模に発生した場合、私たちのいのちを守るのは、他ならぬ私たち自身であり、ライフライン等が寸断された時に、地域で大きな力となるのは中学生である。そのために、今年度も前年度の総合学習に引き続き、総合学習で「竜南いのち守り隊」として活動を行うことにした。大きな被害がこれから起こるであろうという事実を、切実感をもち、災害が起きた時のことを自分の問題としてとらえる。また、自分たちができることを見つけ、行動化できる生徒の育成を目指したいと考える。

2 昨年度までの学びと今年度の学び

○子ども防災会議からの聞き取りからの課題

気仙沼市教育委員会の及川先生によると、実際東日本大震災では、中学生、小学生が大人の予想を超える大きな力を発揮し、不自由な避難生活を支えたり、新聞を作ってやすらぎを与えたりすることができたという。

→中学生のような「若い防災力」が求められているのである。そこで、地震などの災害が起きた際、自らの身を守り、他者を救うことのできる中学生になるために、できることを積極的に行動にうつす中学生を目指す必要がある。

○昨年度の防災フェスタからの課題

本校では、3年生で防災学習を行っている。前年度の3年生は『防災フェスタ』という行事を開催し、学んできた防災学習について、1, 2年生に発表をしている。したがって生徒は防災学習にふれており、近々起こると言われている東海大地震に、備えておかななくてはいけないという思いをもっている生徒は多い。しかし、実際に「災害に備えて〇〇を実践している」「災害が起きた時には、自分はこのように動く」と具体的に考えている生徒は少ないと感じる。

→今年度の総合学習のテーマを前年度に引き続き、「竜南いのち守り隊」として活動を行い、学んだことを実際に形にし、行動化できるようにする。

→そして、今年度も防災フェスタを行い、学んだことを地域に広めていく。

① 防災講話を聞こう(手だて①)

本実践は、岡崎市から宮城県亶理町わたりちょうに東日本大震災緊急消防援助隊員として派遣されたときの話を聞き、災害直後の被災地の様子について学んだ。そこで、生徒は今でも支援を必要としていることにも気づいた。さらに、地震の起こるメカニズムについて、プレートの図を用いて説明していただいたり、「近い将来、必ず東海大地震が起こる」という消防士の方からの話を

2013年度防災教育チャレンジプラン(入門枠実践団体)

最終報告書



聞いたりして、近々地震が起こるということを痛感させられた。そして、災害時には消防署や自衛隊などは、様々なところへ救助にでかけているため、すべての救助活動ができないということも知った。そのような大きな災害時に力となるのが、遠くに働きに出ている大人ではなく、近くで学んでいる中学生であるということを認識した。この防災講話後の授業感想には感想①のような言葉が見られた。

防災講話 感想①

今日消防士の方からの話を聞いて、災害が起こった時には、消防の人や自衛隊の人たちは色々なところへ出かけてしまっていて、救助活動ができないところがたくさんあるということを知った。そのような時は、僕たちのような地域にいて、動ける中学生が率先して動くことが大切だと知り、自分もできることをきちんと行える人になりたいと思った。

自分たちは災害が起きた時にどのように行動していくべきなのかをしっかりと考え、自分たちができることを行動にうつしていかなければいけないという意識をもつことができた。

② そなエリアを見学しよう(手だて②)

修学旅行の中でも防災学習の一つとして、東京臨海広域防災公園『そなエリア』を訪問した。ここでは、東京臨海広域防災公園が、実際に災害が起きた時に果たす役割を学ぶことができるだけでなく、実際に地震が起きた時にどう行動するべきかシミュレーションを行うことができた。そのシミュレーションでは『組織的な救助が行われるまでの72時間



をどう生き延びるか』というテーマのもと、その72時間の行動の仕方

『72時間をどう生き延びるか』シミュレーション体験



液状化現象の実験

考えるものである。ゲームのDSを持って地震発生後の街並みのジオラマの中を歩き進んで行き、『その時、自分はどう行動するべきか』というクイズに答えるものである。生徒一人一人がDSで答え、最も適切と考えられる行動を知ることができるので、自分の考えの未熟さや知識の浅さを改めて実感し、災害が起きた時のことを考える機会となった。また、液状化現象の起こるメカニズムについて、実験を行えるコーナーもあり、

自然現象の不思議や恐ろしさを実際に自分の手で感じる事ができた。非常持ち出し袋に必要なものや、身の回りで非常時に工夫をして使えるものの展示など災害時に役立つ知識やアイデアを体験的に得ることができた。

そなエリアを見学して 感想②

そなエリアでは、エレベーターの中で地震が起きた時の体験をしてとても怖かった。色々なものが壊れた街並みを歩くのもとても恐怖を感じ、実際に起こった時なもって怖い思いをするんだろうなと思った。災害が起きた時は、まず自分の身を守ることや、まわりの人たちと助け合うことが大切だと感じた。

感想②では、自分の命が自分で守ること、家庭で日頃から災害に備えたり、災害時には事前に避難したりする自助、地域の災害時要援護者の避難に協力したり、地域の方々と消火活動を

2013 年度防災教育チャレンジプラン(入門枠実践団体)

最終報告書



行うなど、周りの人たちと助け合う共助の大切さを実感したことがうかがえた。

そなエリアを見学して 感想③

震災が起きてからの72時間は本当に大切だということがよく分かった。新聞紙でコップを作ることができるなど、日用品でも多くのこと、ものに代用できることが分かった。防災グッズの中でもどんな物があると便利なのかなどもよく分かり、家にある非常持ち出し袋の中をしっかりと確認した。

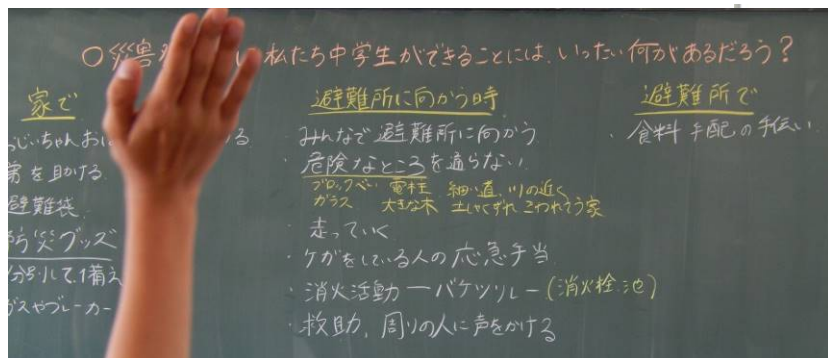
感想③からは、そなエリアで学んだことを生かし、これからの生活に生かしていこうという姿が見られた。その他の生徒からも、災害時の避難場所についても一度家族と確認したということを知り、災害の備えに対しての意識が高まったことを感じた。

③ 東北訪問に向けて、学級で話し合おう

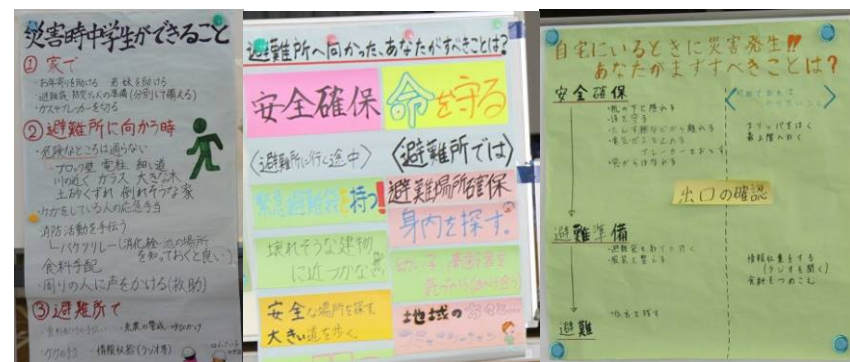
夏休みの東北訪問は、選抜生徒で行うが、訪問先の中学校の生徒と共に行う授業の事前学習を各学級で行った。「災害発生時、私たち中学生ができることはいったい何があるだろう?」の話し合いでは、『家で』『避難所に向かう時』『避難所で』という項目に分けて考えた。『家で』できることを挙げてみると、非常持ち出し袋を準備しておくことや、くつ下やくつなどを避難する時のために準備しておくことなど、事前に準備しておく必要があるものが多いことに気付いた。そして、そのたくさん出た中で「何が一番必要なんだろう?」などの疑問も出てきた。『避難所に向かう時』には、避難経路を確認しておかないといけないこと、『避難所』では周りの人とのコミュニケーションの大切さに気付くことができた。

【事前学習で考えたこと】

- ・災害発生時、すべきことは?・避難所へ向かう時、すべきことは?
- ・緊急持ち出し袋には、何を入れるべきか?・災害時、中学生にできることは?



それぞれの学級で考えたことを下記のようにB紙にまとめた。このB紙を東北訪問に持っていき、授業で活用したいと考えた。また、全校でメッセージを贈ろうと大きな折鶴も作成した。



2013年度防災教育チャレンジプラン(入門枠実践団体)

最終報告書



学区清掃の様子

① 地域清掃ボランティアに参加しよう

夏休みには、地域清掃ボランティアの参加をつのり、学校全体で取り組んだ。この活動に、生徒会が中心となって、「地域とのつながりを大切に、一緒に学区をきれいにしよう」と声掛けを行った。結果、半分以上の生徒が参加し、地域の方々と共に美化に努めることができた。地域の方々とコミュニケーションをとったり、地域を歩くことで、さらに学区のことを深く知ったりすることができた。地域とのかかわりを大切に、よりよい地

域のために力を合わせる必要があることを生徒は認識することができた。

② 学区の高齢者施設でのボランティア

夏休み中に行ったボランティア活動に学区の高齢者施設での夏祭りのお手伝い、オーケストラ部の慰問演奏がある。夏祭りのお手伝いでは、生徒会役員が夏祭りでのかき氷の販売の手伝いを行った。そこでは、参加した生徒会役員から「学区の方とふれあうことができ、またお年寄りの方がとても喜んでくれる姿を見てとてもうれしい」という感想が聞かれた。オーケストラ部の慰問演奏は、今年で6年目を迎え、毎年高齢者施設の方も楽しみにしているということを知った。オーケストラ部員も「先輩の代から交流ボランティアを続けていて、感謝状をいただいたけれど、いつも私たちの方が勉強させてもたっている。上手いとはなかなか言えない演奏でも、喜んでもらえ、演奏をさせてもらえることに感謝している」と言っていた。地域における中学生の力は大きいと感じることができた活動であった。



高齢者センターでのサマーコンサート

③ 東北訪問(手だて②)

夏休みには、昨年からはじめた東北地方訪問を今年も実施した。3年生の中から意識の高い生徒36名を選抜し、校長をはじめとする引率教師5名で3日間東北地方を訪問した。

・金ヶ瀬中学校での防災共同授業

まず、金ヶ瀬中学校の生徒と防災共同授業を行った。金ヶ瀬中は比較的被害の少ない地域であったが、家の中で家具が倒れたり、電気が止まって夜は月明かりしかなかったりという日常生活に影響があったところである。今までに経験したことのないような暗さの中、どのように生活をしたのかという実体験に基づいての話も聞く



金ヶ瀬中学校の生徒との防災授業

ことができた。また、本校生徒が事前に考えた「震災時にできることやすべきこと」を提案し、金ヶ瀬中学校の生徒から東日本大震災での様子を踏まえて、意見をもらうことができた。「断水に備え、風呂に水をためることも必要」という話や、「炊き出しを手伝ったり、風呂を貸したりして協力して支え合った」という体験談を聞くことができた。

2013年度防災教育チャレンジプラン(入門枠実践団体) 最終報告書



生徒の感想④

「自宅にいるときに災害発生！あなたがまずすべきことは？」について話し合った時には、安全確保でブレーカーを落とすことが大事だと分かりました。次に「非常持ち出し袋」については、電気が止まったりしたので、ろうそくが大切だということが分かりました。「災害時中学生にできること」については、中学生が率先して動くことが改めて大切だと感じました。

生徒の感想⑤

避難をした人は少なかったと聞いたけど、水、電気などのライフラインが止まり、風呂水をためて近所で分け合ったり、貯水タンクのある家の人には水を分けてあげたりしたということを聞き、地域での協力や支え合いが大切だということ実感しました。

非常持ち出し袋については、事前に学校で話し合った時にたくさんのものがあがっていて、何が一番必要なかと迷う結果になったが、感想④からあるように金ヶ瀬中学校の生徒の発表から、「明かりが何もなかったので光が必要だった。手回し充電の懐中電灯は便利だけど、ずっと回すのは大変であった。やっぱりろうそくが必要。」と聞くことができた。実際に体験した人からの話は切実感があり、生徒の心に響いたようであった。実際に被災した人からの話で、漠然と必要だろうと思っていた災害の備えがはっきりと分かり、これからの備えや対策に生かそうという思いをもつことができた。

・ 亘理町での津波被災支援ボランティア

次に、亘理町のトマト農家の方から聞き取り調査をさせていただいた。東日本大震災の時の津波は、亘理町にあったほぼすべてのものをさらい、残された家も1階部分は柱のみのものが多くあったという。昨年もここを訪れ、話を聞かせていただいたり、トマトの収穫のお手伝いをさせていただいたりしている。生徒からの「イチゴ農家からトマト農家が変わることで苦労したこと」や、「またイチゴ農家をしたいという思いがあるか」という質問に「亘理町のイチゴは日本一だ」「私は歳なので、私がイチゴ農家を再開することは難しいけれど、次の世代がイチゴ農家を復活させてくれることを願っている」などと答えてくださった。東日本大震災直後に、岡崎市の消防が亘理町を支援したことに深く感謝されていた。本校生徒も岡崎市とトマト農家とのつながりを感じ、その後のトマトの収穫にも力が入った。

生徒の感想⑥

私は、このボランティアを通して、震災時はもちろん、その前後の地域での助け合うことの大切さを痛感しました。竜南学区でも、震災が起きた時のためにも、日頃から地域との交流を深めていくことが大切だということを思いました。



トマト農家でのボランティア

・ 荒浜中学校との交流

最後に、同じ亘理町の^{おおくま}逢隈中学校を訪れた。震災の被害にあって建て替え中の荒浜中学校の生徒が間借りをしているということであった。移動中に、この^{おおくま}逢隈中学校の近くを見学し、中学校の石碑が遠くに流され、窓が割れている様子を見たり、荒浜中の周りであった家がほとんど流され、辺り一面何もない状態を見たりして、津波の被害の大きさとその恐ろしさを知ることができた。荒浜中学校の校長先生からは「震災があったけれど、たくさんの方に励まされ、支えられ、今こうして学校を再開させることができています」というお話を聞くことができた。お互いの校歌を歌い合い、本校全校生徒で作った折鶴を渡し、交流を深めることができた。そ

2013年度防災教育チャレンジプラン(入門枠実践団体)

最終報告書



して、最後に学区の緑丘小・上地小・本校で集めたベルマーク5万点分を渡した。東北地方の訪問で、多くの経験を見聞き、実際にその地を訪れたことは生徒たち自身に大きな切実感が生まれた。東北で経験したことをもとに、竜南中学区で私たちができるところをしていきたいという思いを強くすることができた。

生徒の感想⑦

今回、東北への訪問を通して感じたことは、災害への備えの重要性です。実際に東日本大震災でも水を十分に準備していなくて大変だったということや、防寒対策に苦勞していたということも教えてもらいました。そして、東日本大震災の時に一番重要だった水は3日間飲まずにいると脱水になりとても危険であることや、食料は1週間～2週間は食べなくても平気だということも知りました。災害の備えにはどれが重要なのかという順番についても考えなければいけないということを感じ、正しい知識のもと、災害に対してしっかり準備していきことが大切であると思いました。

訪問をした生徒から、感想⑦からもあるように実際に足を運んで、目で見て肌で感じることができたことがたくさんあったということが見受けられた。必要だと思っていたけど実践できていなかった災害の備えをしっかりと実践することや、災害時に必ず準備しておくべきものを知ることができ、防災への意識が一段と深まった。

④ 防災マップを作ろう

⑤ (1) <学区探検>

2学期は、自分たちの住んでいる地域の防災マップを作る実践を行った。まず、防災マップには、どのようなところがのっているか良いのかを話し合った。すると、『安全な場所』『危険な場所』『役に立つ場所』『助けを必要としている場所』があがった。そして、『安全な場所』にはどのようなところがあるかと聞くと、広い場所、公園、小学校、中学校などがあがり、『危険な場所』には、川、山、細い道、ブロック塀などがあがった。そして『役に立つ場所』として、コンビニエンスストア、スーパー、自動販売機、消火栓などたくさんの場所があがった。生徒は、『役に立つ場所』としてあがる場所が多いと感じたようであった。『助けを必要としている場所』には、高齢者施設や保育園、高齢者がたくさん住んでいる団地などがあがった。その後、学区の地図を分割し、各クラスで分担をして実際に調査しに学区探検に出かけられるようにした。そして、それぞれが見つけた『安全な場所』『危険な場所』『役に立つ場所』『助けを



『役に立つ場所』 防災器具庫



『役に立つ場所』 自動販売機



『危険な場所』 細い道

必要としている場所』を写真にとってくるようにした。

生徒の感想⑧

予想以上に災害時に役立つところがたくさんあって驚いた。でも災害が起きた時は、その施設も被害を受けているのだからちゃんと災害が起きた時に使えるのか疑問に思った。

生徒の感想⑨

今日のまとめを通して、竜南中学区における上記の四つの項目について改めて確認することができました。特に自動販売機やコンビニエンスストアなどはさまざまなところに点在し



ていてどこにあるかを把握しておくのが重要だと思うのでしっかり覚えておきたいです。また、逆に危険なところも普段歩いている場所にも思わぬ危険がある場合があったので普段から少しずつ気を配り、いざという時に安全な道を通ることができるように心がけていきたいです。

生徒⑧は、普段何気なく歩いていて気付かなかったものにも改めて気付くことができようであった。また、災害時にその施設が使えるかどうかという疑問をもったようであった。生徒⑨の感想からは、危険な道を知り、いざという時に安全な道を通ることができるようにしていく備えが必要であると気付くことができた。

⑥ 防災マップを作ろう(2)

次に、学区で調査してきたことを各学級でマップにおとした。分担された地域に分かれて、自分が見つけたポイントをシールでマークしていく活動を行い、『安全な場所』は青のシール、『危険な場所』は赤のシール、『役に立つ場所』は緑のシール、『助けを必要としている場所』は黄のシールで示した。自分たちのよく知っている地域ということもあり、地域ごとのグループで活発に意見交換する姿が見られた。コンビニエンスストアや自動販売機が多いことから地図上では、『役に立つ場所』が目立った。



防災マップにシールをはっている様子

⑦ DIG(災害図上訓練)をしよう

これまで作成してきた防災マップや、学習してきた防災についての学びや知識をもとに、DIG(災害図上訓練)を行った。初めに「防災マップを作ってみて自分たちの住んでいる場所は、安全だと思う?」の問いに1~5段階で答えさせたところ、かなりの生徒が防災マップ上に緑のシールが多いことから『1 安全である』『2 やや安全である』という答えであった。地域の自然条件や構造を調査して作成してきた防災マップをもとに、私たちが住む地域に起こるであろう地震を想定し、自分の住む地域はどのような被害に遭うのかを考えることで、災害を自分ごととしてとらえさせたいと考えた。そこで、震度6弱以上の



液状化現象の被害を受ける地域の提示



危険レベルをカードで意思表示する様子

地震の被害を受けた時、竜南中学区がどのようになるのかを視覚的にとらえさせるために、これまで作ってきた防災マップの上に被害予想を書いたビニールシートをかぶせた。竜南中学区のほとんどが、液状化現象で被害を受けるというビニールシートである。すると「わあ、私の家やばい!」「竜南学区ほぼだめだ!」などという声が聞こえた。被害予想の書いたビニールシートを防災マップにかぶせた後、再度「自分の住んでいる場所は安全だと思う?」という発問をした。すると先ほどの『1 安全である』『2 やや安全である』という意見の生徒が多かったが、それらの生徒は減り、『3

2013年度防災教育チャレンジプラン(入門枠実践団体)

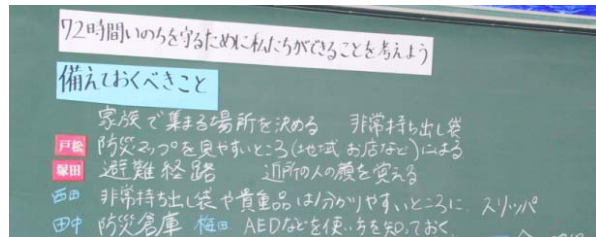
最終報告書



やや危険である』『4 危険である』の生徒が増加した。

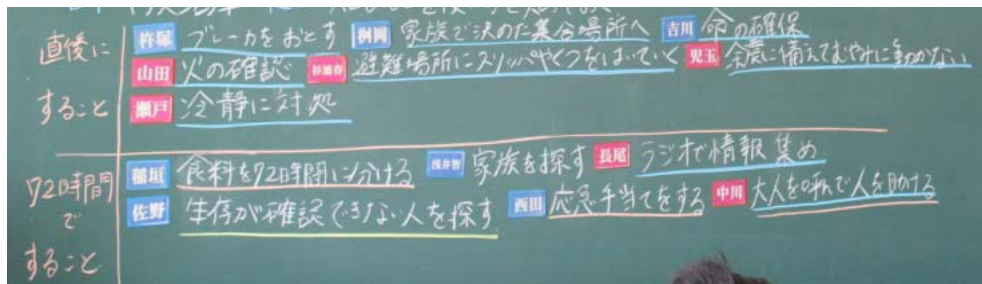
⑧ 72時間いのちを守るために私たちができることを考えよう

その後、地域ごとにグループになり、想定される震度6弱以上の地震があった時に『72時間いのちを守るために私たちができることを考えよう』と予想される被害に備えて何をしておくべきかということを考えさせた。



防災マップを作ったことから、備えておくべきこととして、『家族で集まる場所を決める』『防災マップを地域の見やすいところにはる』『避難経路を確認しておく』など、場所や道など、防災マップを作ったことでこれから必要だと感じたことが多く出てきた。さらに、『近所の人を覚える』『非常持ち出し袋や貴重品を分かりやすいところに置いておく』『スリッパを準備しておく』と東北訪問をした生徒が東北での共同授業やボランティアから学んだことを発表する場面もあった。これまでの学びが生かされていると感じる場面であった。続いて、備えておくべきことをさらに『直後にすること』『災害発生後、72時間ですること』と項目を分けて発表させた。

備えておくべきこととして、『家族で集まる場所を決める』『防災マップを地域の見やすいところにはる』『避難経路を確認しておく』など、場所や道など、防災マップを作ったことでこれから必要だと感じたことが多く出てきた。さらに、『近所の人を覚える』『非常持ち出し袋や貴重品を分かりやすいところに置いておく』『スリッパを準備しておく』と東北訪問をした生徒が東北での共同授業やボランティアから学んだことを発表する場面もあった。これまでの学びが生かされていると感じる場面であった。続いて、備えておくべきことをさらに『直後にすること』『災害発生後、72時間ですること』と項目を分けて発表させた。



備えておくべきことで上記のような内容があげられた。その中で、さらに「中学生ができること」を探させた。すると、「ブレーカーをおとす」「命の確保」「避難場所にスリッパをはやくつをはいていく」などがあがったが、「食料を72時間分に分ける」「応急手当をする」ことなど、中学生にも手伝えるが、中学生だけ行っては危険であったり、できないことがあったりすることに気付いた。そこで「誰の助けが必要なのか?」と発問すると「大人」「地域の人」という答えが返ってきた。そこから地域の人たちと協力をしていくことの大切さや日頃からのコミュニケーションの大切さに気付くことができた。

生徒の感想⑩

今回の授業で自分ができると、自分で命を守るためにできることが多くあることが分かりました。ですが、地域の人との協力がなければできないことも多くありました。普段の何気ないあいさつ、地域の防災訓練、近所づきあいから、地域防災は始まっているのだと思いました。自分の命は自分で守ることは当たり前だと思います。それに加えて中学生は、人を助けるという期待もされています。そのような期待にも応えられるよう、これからも防災学習を発展させていきたいです。

感想⑩からは、これらの活動は自分たちだけでできる活動ではなく、地域全体で考えていかなければならない問題であるということに気付いたことが分かる。このことに気付いた生徒たちが地域の助け合いの重要性を感じ、地域全体でいのちを守る行動をすることを目指したいと考える。本時で学んだことについて、これからさらに追究を進め、地域に根差す中学生だからこその防災対策、災害時の自分たちの行動を考えていきたい。

⑨ 『衣・食・住』のカテゴリーに分かれて追究を深めよう

2013 年度防災教育チャレンジプラン(入門枠実践団体)**最終報告書**

これからは、学んだことを実践にうつすことや、今年度の最後に学習のまとめとして行う防災フェスタに向けて、学年を「衣・食・住」のカテゴリーに分け、これからの追究活動をさらに進めていきたいと考えた。

ア 『衣』 カテゴリー○非常持ち出し袋の中身をそろえてみよう

NPO法人あいち防災リーダー育成支援ネットの理事長である太田貴代子さんに来ていただき、100円均一でそろえられる非常持ち出し袋について話をしていただいた。生徒からは、今まで正しいと思っていたことが違ったり、意外なものが役に立ったりすることを知ることができたという声があがっていた。新たなヒントを得て、非常持ち出し袋をこれからそろえていくことになる。

イ 『食』 カテゴリー○どこでもかまどを作ろう

防災フェスタで下級生にふるまう防災食を東北訪問の中で金ヶ瀬中学校にあった『どこでもかまど』で作ろうと計画をたて、実践している。

ウ 『住』 カテゴリー○避難所体験をしてみよう

まず、防災リーダー太田貴代子さんからさらに防災マップを充実させるためのアドバイスをいただき、防災マップパワーアッププロジェクトを行った。

さらに体育館に避難所を設営し、避難所を運営したり、実際に避難所で寝泊まりしたりする体験を行うことを計画している。

この後の活動については、実践途中であるため、ここに掲げることができないが、思考の連続性を意識しながら実践を行い、生徒が主体的に授業に取り組んでいる。

2013年度防災教育チャレンジプラン(入門枠実践団体) 最終報告書 記入上の留意点



最終報告書の作成にあたり、赤枠の項目について、以下を参照し該当番号を記入し、具体名称等を詳細欄に記入をお願いします。

「その他」を選択した場合は、詳細欄に具体的内容を記入してください。

1. プランの対象者について (複数選択可)

項目		項目		項目	
1	幼児・保育園児・幼稚園児	8	教職員・保育士等	15	高齢者
2	小学生(低学年)	9	保護者・PTA	16	海外
3	小学生(高学年)	10	地域住民	17	防災関係者
4	中学生	11	社会人・一般	18	全ての人々
5	高校生	12	女性	19	その他 ()
6	大学生	13	障がい者		
7	外国人留学生	14	養護学校児童生徒		

2. 対象災害種別について

項目		項目	
1	地震	5	不審者・犯罪被害
2	津波	6	火災
3	水害	7	災害全般
4	火山噴火	8	その他 ()

3. プランの目的について

項目		項目	
1	遊び・楽しみながらの防災	6	防災に関する知識を深める
2	防災に役立つ資料・材料づくり	7	技術を身につける
3	災害に強い地域をつくる	8	防災意識を高める
4	災害を想定した訓練	9	災害対応能力の育成
5	災害を疑似体験	10	その他 ()

4. 協力連携先

項目		項目	
1	学校・教育関係	6	企業・産業関連の組合等
2	同窓会組織	7	ボランティア団体・NPO 法人・NGO 等
3	保護者・PTAの組織	8	職業、職能団体
4	地域組織	9	学術組織、学会等
5	国・地方公共団体等	10	その他 ()

5. プログラムの種類について (複数選択可)

項目		項目		項目	
1	イベント・行事	7	学校内クラブ活動	13	体験学習
2	講習会・学習会・ワークショップ	8	その他学校内での時間	14	読書・絵本・読み聞かせ
3	講演会・シンポジウム	9	校外学習・移動教室	15	演劇
4	総合的な学習の時間	10	家庭学習	16	避難・防災訓練
5	教科学習	11	出前授業	17	その他 ()
6	学級活動	12	研究		